

階級的労働運動再生の手引き

労大ハンドブックⅢ『やがてくる日』に学ぶ

第4回 東京ブロック

第四章 貴重な教訓、63ストと主婦会結成



レポーターの田口勝義さん（左）

が、どのように取り組まれてきたか、西部県協の田口勝義さんに報告してもらい、学び合いたいと思います。

「一票差」で勝ったことで

田口：私は「まなぶ」との関わりは、職場青年委員選挙を「一票差」で勝ったことが「まなぶ」との始まりです。

あれから現在まで運動を続けて来られたのは何だったのかを考えた時、私

自身の74年間で振り返れば、帝都高速度交通営団（営団地下鉄）に就職結婚・育児、職種転換、定年・再雇用、

孫の誕生等々のという人生経験をしてきました。

この間、日常生活の中で一番苦労したのは、妻や家族の運動への理解です。妻や子どもに少しでも私の取り組んできた運動を理解してもらえるようになったのは、「西部県協・南部県協合同まなぶ読者大会」で妻や子どもと一緒に参加し、仲間の顔を知り会うようになってから、徐々に人間関係ができてきたように思います。

娘が職場で倒れ、緊急搬送

司会（佐久間）…三池の三本柱である、学習と職場闘争と家族ぐるみの運動の中で、今月は、西部県協の家族ぐるみ



この間の職場学習会や目黒地域学習会、西部県協の会議で私の気持ちの中に残っているものがあります。

それは、娘の就職問題です。

娘は、短大を卒業して「保育士」の資格を習得し、私立幼稚園に就職しましたが、すぐに一人で「クラス担任」を任され、幼稚園の仕事に入りました。

職場では、仕事に対し相談する人もなく「自分は何をすれば良いのか」も見えないなか、それでも自分なりに頑張っていました。幼稚園では、明日の仕事の段取りをやり切れず、毎日、仕事を家に持ち帰って、夜遅くまで準備をしている姿を見ていました。

そんな毎日ですから、仕事を始めて一カ月もすると、肉体的にも精神的にも疲れ果ててしま

いました。

学校紹介で就職した手前「辞めるに辞められない」ということがあり、幼稚園側でも「人がいないので、すぐに辞めてもらっては困る」と言われ、どうにもならないところまで娘は追い込まれてしまっていました。

そういう状況が続く中、娘は仕事中に幼稚園で倒れ、救急搬送される事態が起こりました。

私も妻も「このままではダメだ」と話し合い、「絶対に辞めさせない」という幼稚園に直談判に行き、何とか幼稚園を辞めることができました。

その後、幼稚園側の娘に対する対応は「離職票」を出して欲しいと頼んでも、拒み続け長い期間「嫌がやせ」が続きました。

娘は、二カ月弱で幼稚園を退職することになりました。私は、正直、「娘の命を救うことができた」という実感がありません。



退職後、娘は、好きなミュージカルや舞台の観劇で、蝕まれた精神的ダメージを癒し、また自ら進んで劇団に入り、演劇活動をするようになるまで元氣になっっていました。

大雪の中、仲間が駆けつけた

私は、娘の話や「近況報告」を職場

学習会、目黒地域学習会、西部県協の会議等で話していました。

私の話を聞いた西部県協の仲間たちは、「大雪の降る中」、元氣になった娘の顔を見るため、発表会に駆けつけてくれ、娘に直接声をかけてくれたことについて、まなぶの仲間の「人間味のある優しさ」に支えられたと思います。

娘は二日目にも発表会があり「お父さん、今日もお父さんの仲間が見に来てくれたよ」と、嬉しそうに話す娘の顔を今も思い浮かべることができます。現在、娘は結婚・出産を経験し、派遣社員ですが、元氣に共働きをしながら育児を頑張っております。

仲間を信じて県協事務局長に

私も一時期、家庭と運動の板挟みで「運動をやめたい」と思ったこともありました。が、運動を続けてきて良かったと思ったのは、56歳で駅への職種

転換で悩んでいた時に、西部県協の仲間の励ましで、再雇用を含め47年間も働き続けられたことでした。

私には、三つ四つの転機がありました。が、高井県専従や西部県協の仲間を支えられながら今日まで何とか来られたと思っています。

私自身の今後の「大衆学習運動」を考えた時「もう一歩前に出てみよう」という気持ちになり、これまで支えてくれた仲間を信じて「西部県協事務局長」を引き受ける気持ちになりました。

仲間・家族に寄り添う

今後は、学習会の継続は勿論ですが、あらためて学習会参加者一人ひとりの思いを大切にしながら「闘い一生・学習一生」の目標を深め、また「仲間・家族に寄り添う」大衆学習運動へと積み上げていければと考えています。



東京地下鉄 日比谷線車両

司会（佐久間）…田口さん、ありがとうございます。
うございました。

田口さんが取り組まれてきた家族ぐるみの報告がされました。皆さんから質問、自分の経験を踏まえて出しているだけとありがたいです。

会社側の先輩から言われ

磯部…職場青年委員選挙で、一票差で勝ったことが、まなぶや労働組合運動その後の人生が大きな転換点になったということですが、どういうことで立

候補したんですか。

田口…選挙になったTさんとは、渋谷車掌区時代に同じ班で仕事をしていました。私が職種転換で運転士になり、中目黒電車区に配属されました。当時22歳の私は、労働組合の口の字も知らない状況で、会社側（インフォーマル）の先輩から青年委員に立候補するように言われ、Tさんとの選挙になり、一票差で勝ちました。

そのTさんから「役員の引継ぎをしたい」と誘われ、自宅に行くと、「これを読めば運動がわかる」と労大新書10冊ほど渡されました。また、当時やっていたまなぶ学習会などに誘われ徐々に、インフォーマルよりも「まなぶ」の仲間との関係が強まってきたことが転機となりました。

家に帰ると、意識して話す

島田…西部県協と南部県協合同のまな

ぶ読者大会に家族が参加するようになったということですが、俺も家族には声をかけているが来てくれません。田口さんのところは、どのような努力で参加するようになりましたか。

田口…学習会や西部県協の会議の中で家庭状況の話をするようになり、また家に帰ると学習会や会議の話を意識してやるようにしています。一緒に活動している仲間を家族に知って貰いたいというのが強かったです。

島田…そうか、そういえば俺は、田口さんみたいに会議の中身を家で報告するなんてことは、殆どやってこなかったな、もう少し丁寧に自分のことを話さなければならぬね。

槍崎…それですか！ 大雪の中でも仲間が、駆けつけてくれた高井さんは、大雪の降る中でも演劇発表会に行ったのですね、なぜ、行ったんですか。

高井…田口さんとは20年以上の付き合いがあり、地下鉄の職場には信頼で

きる仲間が少ない中で、職場の民主化を取り組んできました。その中で労働組合の役員選挙もありました。そういった活動を通じての信頼関係があったということです。

槍崎…信頼関係ねえ！ 職場の民主化を取り組んできたということですが、どのような闘いを取り組んできたのですか。

安全標語読み上げ拒否

田口…職場抵抗闘争として、出勤点呼での安全標語の読み上げ拒否、「精神訓話的な安全標語の読み上げで安全は守れない」、休暇申請書の理由欄に×印を記入する、「休暇に理由はいらない、自分の休暇は権利」だと職場抵抗をみんなで議論し闘ってきました。

芳賀…幼稚園側が、「絶対に辞めさせない」と言っていた幼稚園を娘さんは、どのようにして辞めることができたの

ですか。

田口…娘がかわいいから、娘を心配して必死でした。夫婦で何回も相談し、夫婦だけで対応できないから学校にも連絡をとり、就職担当者にも来て貰って、これじゃ娘が殺されてしまうからと、言い争いにもなりました。何しろ必死でした。

芳賀…大変だったね。

なぜ、運動をやめたいと

柳沢…田口さんが、最後の方に触れられていた、家庭と運動の板挟みで運動を辞めたいと思ったことがあったのはどうしてですか。

田口…子どもが小さかった頃、活動で夜遅く帰る。泊まり勤務で週2回家に居なかったりの時に、カミさんは子どもを風呂に入れる時などは大変だったので、「なぜ運動をやっているの、高井さんに任せておけばいいんじゃない

の」と言われたり、言い合いになったことがありました。その時は「運動を辞めたいな」という意識が芽生えたことがありました。

渡部…それでもギリギリ残ったのは、なぜですか。

田口…一緒に頑張ろうという仲間が、職場や地域に居て、その人たちを裏切ることはできませんでした。

渡部…職種転換で悩んでいたという報告がありました。どんな内容だったのですか。

田口…聴力検査で通らなくて、乗務不適格とされて、本来なら乗務区内で作業だったものが、全く畑違いの駅へ配転攻撃がされました。

駅も機械化が進んでいて、若い仲間をレクや飲み会で組織して、駅の仕事を教えて貰いました。私が65歳で再雇用定年を迎えることができたのは、組織した駅の若い仲間を支えられたお陰です。

◆みんなの学習講座



久々に「地下鉄博物館」を見学

島田…営団地下鉄には、地下鉄交流会

が組織されていると聞いたことがあるのですが、どんな中身ですか。

田口…合理化攻撃の真つ只中の90年代はじめに、各職場の仲間を中心に、現状の職場実態や家庭状況を軸に相互討論ができる交流会となるように、2カ月に一回のペースで取り組みを続けてきました。

司会（佐久間）…その地下鉄交流会は、今、どうなっているのですか。

地下鉄OB会を結成

田口…地下鉄交流会を続けてくる中で、仲間が職場から離れる定年退職者（再雇用含む）が徐々に増えてきました。

そんな中で、退職後は自宅に引きこもってしまう仲間も多くなってきました。それで、今までの経験や苦労を今後

も共にしながら「学習と交流」が続けられるようにしていこうということで、退職した仲間の結集の場として、自分たちのOB会を「地下鉄OB会」を2012年2月に結成しました。現在、会員数は42名です。

世話人会で相談し毎年の総会と「OB会交流会」も企画・実行しています。OB会は、「学習と交流」を私たちの一生の課題と位置づけ、「あせらず・じつくりと」活動が続けていきたいと考えています。

柳澤…田口さんは、これから自分の経験を活かして、どんな運動を考えてい

ますか。

「このまま、終わらせられない

田口…私は、三池の家族ぐるみや主婦会の取り組みを学習し、今日報告したような取り組みで元気になることが出来ました。

この経験を今後の大衆学習運動に活かし、現役時代に職場で共に闘った仲間の絆が「このままでは終わらせられない」という思いで繋がっている証であるし、学習会を闘いの砦として「学習と交流」をこの仲間と共に積み上げていきたいと考えています。

司会（佐久間）…次回第5回は、三池の三本柱だった学習、職場闘争、家族ぐるみの経験を学ぶ中で、北部県協の高原さんから自分の半生、特に組合結成の時の経験、人らしく働き続けるために努力した内容を報告してもらい学び合います。